

業務システムの最適解を目指す

Windowsシステム 拡充プロジェクト

株式会社エルシーネット／株式会社ハローシステム 楽にネット

Webシステムでは、クライアント側に必要なのはブラウザのみなので、プログラム配布の問題を気にする必要がない。ところがブラウザの機能だけでは、リッチなUIが要求される複雑な業務システムを構築できない。これを解決するのがスマートクライアントだ。今回は、スマートクライアントを採用したASPサービス型システムを紹介しよう。

介護業務を効率化したい

わが国日本では、異例のスピードで高齢化が進んでおり、21世紀半ばには、3人にひとり65歳以上と言われている。そこで注目されているのが介護保険制度。高齢化が進むにつれて、介護保険による介護サービスを提供する事業所は大賑わいになることが予測される。ところが、「非効率に業務を処理している介護事業所が多い」というのは、エルシーネットの小林隆治氏。小林氏は介護事業の現状について次のように語る。

「介護サービスの大きな流れを説明すると、居宅支援事業所（ケアマネージャ）は、訪問介護、訪問入浴、デイサービスなど10種類のサービスのうち、利用者の健康状態に合わせてサービス

を選択して介護プランを作成します。この介護プランをもとに介護サービス事業所は、利用者へ介護を実施します。

そのために、ケアマネージャは介護サービス事業所に介護プランを渡さなければなりません。ケアマネージャと介護サービス事業所それぞれで利用しているシステムが異なるため、ケアマネージャは作成した介護プランを紙に出力してFAXし、介護サービス事業所は受け取ったFAXを見ながらデータを再入力しています。

このやり方はムダが多く、データ入力ミスも発生します。これで一番困るのは国民健康保険団体連合会（国保連）に介護保険料を請求する際です。ケアマネージャが作成した介護プラン

と、介護サービス事業所の介護実績のデータが合わないと介護保険料は支給されませんので、両者の帳尻を合わせるのに相当な労力が必要となります」

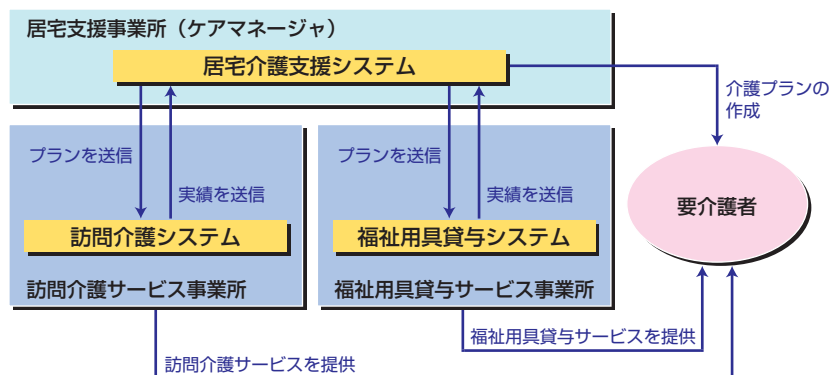
このような労力を省くための支援サービスを、安価で提供できないかと考えて開発されたのが「楽にネット」だ。

Webのデメリットを スマートクライアントで解消

楽にネットは、.NET Framework上で動くASPサービス型システムで、図1に示すように、3つのシステムから構成されている。開発を担当したハローシステムの出口俊輔氏は、各システムの特徴について次のように語る。

「介護サービスの種類は10種類あり

図1：楽にネットのシステム構成



株式会社エルシーネット 専務取締役
小林 隆治

ますが、このうち楽にネットでは、居宅介護支援と訪問介護、福祉用具貸与の3種類をサポートしています。訪問介護はホームヘルパーが利用者の自宅を訪問して介護するサービスです。一方、福祉用具貸与サービスは、車いすなどの福祉用具をレンタルするサービスです。

ケアマネージャは居宅介護支援システムを利用して、10種類のサービスの実施プランを作成します。作成された実施プランは、訪問介護システム、福祉用具貸与システムにそれぞれ送信されます。そして、各サービス事業者は介護プランをもとに実施した介護実績を居宅介護支援システムに送信します。データの送受信はWebサービスを使って行ない、データはSQL Server 2000で一元管理しています。これにより、いままでのような介護プランと介護実績のデータの不一致は発生しません」

また、楽にネットでは、ノータッチデプロイメントによるスマートクライアントを採用している。この理由とは何か。

「介護保険の業務はとても複雑です。たとえば、介護のレベルが軽い順に“要支援”から“要介護1～5”というように規定されており、このレベルによってサービスの内容を決めたり介護保険料を算出しなければなりません。

この業務の支援機能を実装するには、複雑な処理を要します。WebシステムではWebサーバーに大半の処理を実装しなければならないので、大きな負荷がかかりWebサーバーがダウンしてしまいます。また、介護保険料請求書の締め切りまえには多くの介護事業所で入力作業が行なわれて処理が集中しますので、やはりWebサーバーはパンクするでしょう。

そこで、クライアントにも処理を実装することができるスマートクライアントを採用しました。

また、ノータッチデプロイメントを利用している理由のひとつに、制度改正への対応があります。介護保険制度は頻繁に改正されます。今年の4月にも介護保険制度の見直しが行なわれますが、ノータッチデプロイメントにより制度改正に伴うクライアントの機能拡張は容易です」

楽にネットのクライアントには、簡単な設定やドラッグ&ドロップだけで業務を行なう機能が多数搭載されている。.NET Frameworkの機能をどのように利用して実現しているのだろう。

「3つのシステムには、表示/印刷/など、共通しているクライアント機能が多数あります。これら機能は、.NET Frameworkのクラスを拡張して部品化

し使いまわしています。たとえば、介護サービス項目の一覧表示では標準のDataGridを、フォーカス移動による入力フォームの反転では標準のTextBoxを部品化しています」

登録者拡大に向けて

楽にネットは一昨年(2005)の10月にASPサービスを開始してから現在まで、登録者数が約200社。このうち、ケアマネージャが100社、介護サービス事業者が70社、福祉用具貸与サービス事業者が30社登録している。今後登録者拡大に向けて、どのような目算があるのだろうか。

「現在3つの介護サービスのみをサポートしていますが、ほかの介護サービスにも対応していきたいですね。高齢化が進むにつれて、楽にネットもシステム拡張してゆく必要があるのです」



株式会社ハローシステム 専務取締役
出口 俊輔

拡充のポイント

- ・ スマートクライアントの採用により、Webシステムでありながらリッチな機能を提供
- ・ Webサービスを使ってデータを送受信し、データはSQL Serverで一元管理
- ・ ノータッチデプロイメントによりクライアントの機能拡張が容易